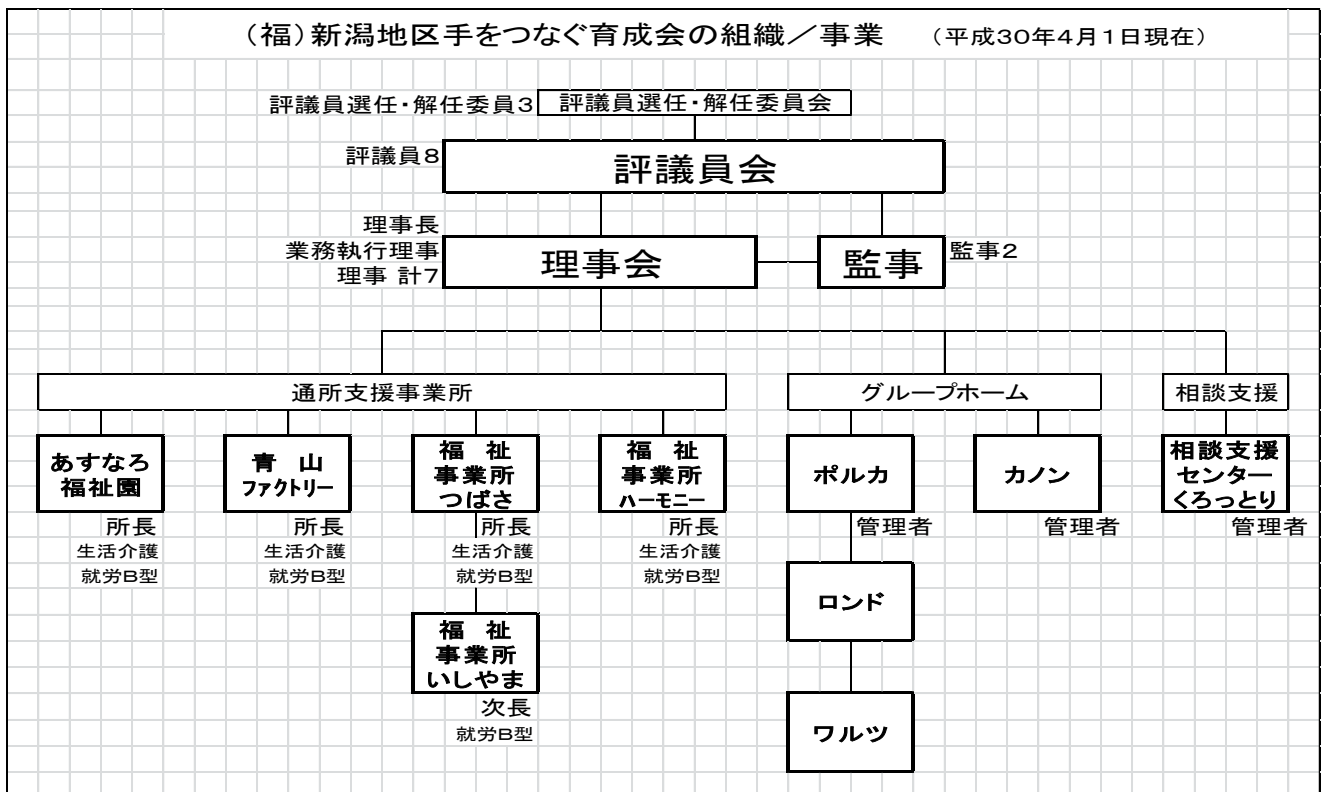


[1]

平成29年度事業報告書

平成29年度事業報告書

(社会福祉法人新潟地区手をつなぐ育成会)



1 平成29年度の主な事業

1 豊照拠点施設の移転・基盤更新にかかる対応

(1) 移転先の候補物件の絞り込み

豊照拠点施設の移転・基盤更新にかかる対応については、「中央区内における民間所有の適地に移転する」こととし、移転先候補物件を絞り込むに至りました。

候補物件は、中央区関新／宅地／建物あり（事務所・倉庫。鉄骨造陸屋根4階建）

(2) 豊照拠点施設の移転先獲得に関する基本的な方針

① 利用者の利便性・交通条件

利用者の公共交通機関利用の通所が可能であること。

可能な限り現拠点に近い移転先を確保し、利用者の継続利用に資すること。

② 事業展開に必要な立地条件

現拠点における事業展開が引き続き可能となる面積を確保できること。

市役所・県庁や公共機関等との連絡もよく、引き続き、培ってきた地域とのつながりを生かし、公園緑地など地域の資源を活用していくことが出来ること。

(3) 「移転先の候補物件の絞り込み」に至るまでの経過

ア 豊照拠点移転検討委員会の設置

移転先の絞り込みを円滑に進めるため、豊照拠点を構成する事業所・事務局の関係者で構成する検討委員会を設け、意見交換を行い、情報の共有に努めた。

イ 旧豊照小学校の構内における土地取得の模索

旧東中通拠点施設（福祉事業所つばさ・法人本部）の老朽化に伴い、平成 27 年度第 3 四半期に新潟市と賃貸借契約を結び、豊照町の市有地・旧豊照小学校に移転した。（契約期限は平成 31 年 3 月 31 日まで。）このとき、新潟市障がい福祉課から、地域との良好な関係構築を前提として、同地（旧豊照小学校校地）の一部の土地取得の可能性を示唆された。

しかし平成 28 年度第 4 四半期において、新潟市は、同地の一部の土地取得に応じられない旨を明らかにするに至った。

ウ 他の市有地等の活用の模索

後発の当法人の自己資金保有高は十分とは言えず、高額な施設更新（新築整備等）費用を確保することは容易でない。国の財政も厳しく既成施設の更新は施設整備費の対象とされていない。一以上から、整備費用低減の可能性を求めて、新潟市に対し、市有地の利用（取得または賃貸借）について相談し、情報提供を要請した。

教示を受けた物件はいずれも難点があり、これを確保し移転できる可能性とメリットはほぼないと判断するに至った。（難点一確保の見通しが得られない。／確保の見通しを得るまでに相当の時間を要する。／「仮移転」余儀なしなら費用低減が無理。かつ、利用者に無用のストレスを及ぼすおそれがある。）

エ 移転先対象を民間適地に拡大

複数の物件について、現地調査や関係者の事情聴取を経て、候補物件を絞り込むに至った。

2 共同生活援助事業所カノンの開設

共同生活援助事業所カノン（4つ目のグループホーム）を平成 29 年 8 月に開設しました。

3 障害福祉サービス事業の展開

5つの事業所及び4つの共同生活住居において、利用者支援事業に取り組みました。

平成 29 年度 1 日平均利用者数			
施設等の区分	名称	平成 29 年度	(前年度)
障がい福祉サービス事業所 (通所支援事業所)	あすなろ福祉園	46.0 人	(46.5 人)
	青山ファクトリー	36.9 人	(35.1 人)
	福祉事業所つばさ	27.8 人	(25.2 人)
	5 従たる事業所 福祉事業所いしやま	11.9 人	(12.0 人)
	福祉事業所ハーモニー	39.4 人	(39.7 人)
グループホーム	4 ポルカ・ロンド・ワルツ・カノン	17.0 人	(13.0 人)
特定相談支援事業所	1 相談支援センターくろっとり	—	—
法人合計		179.0 人	(171.5 人)

2 会議の開催

1 理事会・評議員会の開催

理 事 会	
平成 29 年度 第 1 回定時理事会 H29. 5. 26	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成 28 年度事業報告・決算報告・監査報告の承認 2 次期役員（理事・監事）候補者の選任 3 定款の変更 4 役員等報酬及び費用弁償規程の改正 5 規則・規程の制定・改正 ◇カノン(共同生活援助)運営規程の制定 ◇慶弔規程の制定 ◇職員給与・退職金規程 ◇支援スキル等評価実施要領の制定 6 理事長の業務執行状況報告 7 事業所運営規程改正（従事者数変更）について理事長専決とする件の承認 8 定時評議員会の招集
平成 29 年度 第 1 回臨時理事会 H29. 6. 30	<ol style="list-style-type: none"> 1 理事長の選定 2 業務執行理事の選定 3 平成 29 年度資金収支補正予算 4 平成 29 年度定時評議員会の報告
平成 29 年度 第 2 回臨時理事会 H30. 1. 24	<ol style="list-style-type: none"> 1 入札契約見直し等に伴う会計関係規程等の制定・改正 ◇経理規程 ◇請負工事等発注基準及び競争参加者選定要綱 ◇契約担当者の委任等に関する取扱要綱の制定 ◇会計責任者等の任命に関する取扱要綱の制定 2 評議員会上程議案の決議 ◇定款細則の改正 ◇役員等報酬及び費用弁償規程の改正 3 常用職員就業規則及び有期契約職員就業規則の改正 4 「職員給与・退職金規程」外 2 件の改正 ◇職員給与・退職金規程 ◇臨時職員等の給与に関する取扱要綱 ◇育児・介護休業に関する規則 5 再雇用就業規則の制定 6 再雇用職員給与・賞与・退職金規程の制定 7 平成 29 年度予算補正(理事長専決処分)の承認 8 随意契約・工事請負契約(理事長専決処分)の報告 9 共同生活援助事業所カノンの開所(報告) 10 業務監査の実施(報告) 11 法人管理者研修の実施(報告)
平成 29 年度 第 2 回定時理事会 H30. 3. 2	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成 30 年度事業計画及び資金収支予算 2 平成 30 年 4 月期人事案件 3 「福祉事業所つばさ」、本部等の移転について（報告） 4 「福祉事業所つばさ」、本部等の移転にかかる方針(承認) (中央区関新の物件を移転先候補とする件)

評 議 員 会	
平成 29 年度 定時評議員会 H29. 6. 26	1 平成 28 年度事業報告・決算報告・監査報告の承認 2 次期役員（理事・監事）の選任 3 定款の変更 4 役員等報酬及び費用弁償規程の改正 5 規則・規程の制定・改正（報告） ◇カノン(共同生活援助)運営規程の制定 ◇慶弔規程の制定 ◇職員給与・退職金規程 ◇支援スキル等評価実施要領の制定 6 理事長の業務執行状況報告（報告）

2 経営会議の開催

平成 29 年度 第 1 回経営会議 H29. 8. 17	1 「福祉事業所つばさ」の移転に係る検討状況について 2 資金計画について 3 法人の今後の課題について
〃 第 2 回経営会議 H29. 9. 14	1 前回の経営会議以降の活動状況について 2 あすなろ福祉園の陸屋根防水工事等について 3 つばさ等の移転延期に係る考え方等について
〃 第 3 回経営会議 H29. 10. 16	1 前回の経営会議以降の活動状況について 2 あすなろ福祉園の陸屋根防水等工事について 3 今後の活動について
〃 第 4 回経営会議 H29. 12. 13	1 来年 4 月の幹部人事について 2 再雇用職員の処遇について 3 本部・つばさ等移転の進捗状況について
〃 第 5 回経営会議 H30. 1. 15	1 第 2 回臨時理事会について 2 その他
〃 第 6 回経営会議 H30. 2. 19	1 平成 29 年度第 2 回定例理事会について 2 その他

3 本部・つばさ移転検討委員会の開催

第 1 回検討委員会 H29. 5. 16	1 法人本部・福祉事業所つばさ移転検討委員会の発足について 2 移転の検討にあたって
第 2 回検討委員会 H29. 7. 28	1 現在の候補地の状況報告 2 今後の動きについて
第 3 回検討委員会 H29. 10. 25	1 第 2 回委員会以降の経緯等について 2 移転延期の取り組みについて
第 4 回検討委員会 H30. 3. 20	1 これまでの経緯と現在の状況について 2 今後の移転方針について 3 移転候補地の絞り込みについて 4 定例理事会での基本方針の了承について 5 今後の進め方について

3 研修会の開催等

1 平成 29 年度第 1 回法人職員研修会

平成 29 年 6 月 24 日(土) 聖籠町町民会館

[第 22 回新潟県手をつなぐ育成会聖籠大会]

- 席上揮毫 金澤 翔子 様 女流書家
- 講演「ダウン症の娘と共に生きて ～そこから見えてきたこと～」
金澤 泰子 様 書家

2 平成 29 年度第 2 回法人職員研修会

平成 29 年 7 月 8 日(土) 新潟市黒埼南部公民館

- 障害者差別解消法と共生社会 「合理的配慮」
長澤正樹 新潟大学教育学部教授 理事
- 個別支援計画作成・その考え方 一人ひとりを大切に
本間敬子 あすなろ福祉園所長

3 平成 29 年度第 3 回法人職員研修会

平成 29 年 12 月 9 日(土) 新潟市黒埼南部公民館

- 個別支援計画の作成 本間 敬子 あすなろ福祉園所長
 - 個別支援計画の作成等について(説明)
 - 個別支援計画の作成(個人ワーク) / (グループワーク)
 - 中間評価の作成(個人ワーク) / (作成例・まとめ)

4 平成 29 年度第 4 回法人職員研修会

平成 29 年 3 月 17 日(土) 新潟市産業振興センター

- 交通安全講習 東京海上日動火災保険(株)新潟中央支社長代理 大西克仁 様
- 外部派遣研修(真柄福祉財団企画助成)報告
 - (1) 先進施設視察研修 北海道札幌市
中峯厚子 事務局長 / 松原伸直 事務局参与
本間敬子 あすなろ福祉園所長 / 上野幸治 福祉事業所つばさ所長
 - (2) 先進施設現場実地研修 大阪府高槻市
五十嵐直人 あすなろ福祉園職業指導員

5 法人管理者研修

	実施日	テーマ	備考
第 1 回	H29. 12. 20	リーダートレーニング 所長コース I 法人組織と所長の役割	参加者 8 名
第 2 回	H30. 1. 23	リーダートレーニング 所長コース I 人材育成の必要性	参加者 8 名
第 3 回	H30. 2. 27	リーダートレーニング 所長コース I 人間関係技能の向上	参加者 8 名
講師 ; 関川 健司 様 (新潟県農林公社業務執行理事) 会場 ; 福祉事業所つばさ・多目的室			

6 外部派遣研修（先進施設視察研修／先進施設現場実地研修）

企画・助成	研修名称／日程	研修先／施設	備考
(公財) 真柄福祉 財団	先進施設視察研修 H29. 11. 29-12. 1	(福)はるにれの里 ・札幌市自閉症者自立支援センターゆい (福)麦の子会 ・ジャンプレッツ ・スワカフェ&バーカリー札幌ハーベストガーデン (福)札幌この実会 ・サライト26／この実支援センター	参加者 4 名
	先進施設現場実地研修 H30. 1. 29-1. 31	(福)北摂杉の子会 ・萩の杜 ・LaLa-chocolat ・ジョブサイトひむろ ・レジデンスなさはら ・ふれいす Be	参加者 1 名

4 苦情受付件数

平成 29 年度苦情受付件数

事業所別		苦情受付件数(件)	備考
通所支援事業所	あすなる福祉園	2	
	青山ファクトリー	0	
	福祉事業所つばさ	1	
	(従たる事業所) 福祉事業所いしやま	1	
	福祉事業所ハーモニー	3	
共同生活援助事業所 (グループホーム)	ポルカ	0	
	カノン	0	
特定相談支援事業所	相談支援センターくろっとり	0	
計		7	

(苦情事例から)

分類; 苦情・相談・要望・意見・虐待

事業所	あすなる福祉園		
日付	分類	内容	摘要
H29.8.28	苦情	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の保護者(母)から、連絡帳の記載により、次の苦情が寄せられた。 <ol style="list-style-type: none"> ①8/25 付け家庭からの伝達内容に対する応答の記載なし。 ②同日の園からの記入欄に記載なし。 ③信頼関係が一度崩れたら修復が大変になる。今後気を付けてもらいたい。 ・連絡帳の記載を確認した担当した職員から所長、サービス管理責任者に報告。その後 10 時半頃、利用者自宅へ電話し、保護者に謝罪。 ・所長が連絡帳に次を記入。 「お伝えいただきましたことを真摯に受けとめ今後職員一人ひとり努めてまいります」 	解決 (解決策) <ul style="list-style-type: none"> ・朝連絡帳を見た時点で、早退・遅刻の連絡の記載があったらすぐに「承知いたしました」等応答し、及び確認した旨を記載する。 ・降所時、連絡帳をしまう際、再度記入漏れを確認する。
H29.10.20	苦情	<ul style="list-style-type: none"> ・10 時半頃、匿名希望者(女性)から電話（非通知）で指摘があった。(所長が受信、対応。) ・職員が(状況を伝えるために)大きな声で「排便あ 	解決 10/23 サービス管理責任者に報告。

		<p>った」「たくさん便が出た」など叫ぶ声が聞こえた。人権的にいかななものかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大人なのに子ども扱いしている」と思われる。利用者は一人の大人として対応すべきではないか。 ・一生懸命に支援しているのはわかる。ただ、この対応を自分の家族や自分に置き換えてほしい。改めてほしい。 ・この対応で所長から、相手の方へ「伝えてもらったことはありがたかった」と伝えると同時に、謝罪と指摘の内容を真摯に受けとめ、今後は職員全体で周知徹底していくことを伝えた。 ・所長から、事実確認（いつどこで）をしようとしたが、電話が切れた。 	<p>10/23 法人事務局長に報告。</p> <p>10/24 法人所長会議で情報共有。</p> <p>10/25 園の職員に報告。全員で次を意思統一。</p> <p>①一人の成人として常時意識。</p> <p>②伝達の暗号化。</p>
--	--	---	---

事業所	福祉事業所ハーモニー		
日付	分類	内容	摘要
H30.2.8	苦情	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の保護者(母)から、電話で、「利用者本人帰宅後下着(パンツ)の便付着を発見した。体を洗ってもらえたのか」との強い問いかけがあった。 ・当該支援職員は、職員2人で洗体・着替えの介助を行ったことを説明した。 ・保護者の納得はなかなか得られず。やり取りは続いたが、「以後気を付けます」と述べ、電話を終えた。 	<p>解決</p> <p>成人に相応しい身繕いの支援は、利用者の尊厳を守る。心したい。帰路における失禁の可能性も考えられる。着替え時の体の汚れの有無の確認が必要。</p>
H30.2.8	苦情	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の保護者(母)から、帰路の移動支援サービスの職員(別法人)からの伝達内容について、電話があった。 ・移動支援職員の伝達内容(ハーモニー職員の話の伝聞)―当日、本人は軽い咳をしていたが、発熱がなかったため母親は登所させた。日中も状況に変化はなかった。降所の折、職員から、「熱が出なかったからいいものの・・・」との説明があった。 ・保護者はこれを聞き、立腹し、当所に電話をした。一本人の登所については母親なりに考えてのことだった。ハーモニーでも十分に理解してもらえていると思っていたのに、登所させたことが迷惑だったと受け取られたことに対し、抗議したいとのことだった。 ・電話に対応した職員から、本人の日中の状況と、移動支援の職員への伝達内容（どんな言葉を用いたか）について、繰り返し説明した。 ・やがて、穏やかに互いに話ができるようになった。保護者の気持ちがほぐれてきた様子が感じられ、電話を終えた。 	<p>解決</p> <p>相手方を尊重し配慮した伝え方、言葉の使い方をしっかりと身に着けた。</p> <p>何気ない一言が誤解を生む場合はよくある。気を付けたい。</p> <p>(この事例では、問題とされた伝達内容は当所職員の話の伝聞であり、正しく伝えられなかった部分もあると考えられる。)</p>

5 事故報告

平成 29 年度事故報告

1 利用者に関わる事故(3 件)

事業所名	発 生 日	概 要
つばさ	H29.10.25	職員が業務中、利用者に髪を強く引っ張られ手も噛まれる。他の職員が離し、クールダウンした。
あすなる福祉園	H30.1.17	机の上に置いてあった加湿器がソファに落ち、座っていた利用者の腰にお湯がかかった。利用者の腰に赤みがあり看護師に見てもらい、患部を保冷剤で冷やしたのち医院にて治療を受けた。
あすなる福祉園	H30.2.15	利用者の体調不良に伴う臨時的な食前の服薬(胃腸薬)を忘れた。気が付いたので食後だったが服薬してもらった。

2 交通事故(3 件)

事業所名	発 生 日	概 要
あすなる福祉園	H29.5.12	送迎で狭い路地を進行中に車を他家の塀に接触させる。乗員にけがなし。送迎車修理。
あすなる福祉園	H29.9.28	送迎途中低速で車をバックさせた際に電柱に衝突させる。乗員にけがなし。送迎車修理。
つばさ	H30.1.18	送迎利用者宅の前で停止しようとしてバックした際に塀の突起部分と車を接触させる。乗員にけがなし。送迎車修理。

平成 29 年度事業報告書

(障害福祉サービス事業所 あすなる福祉園)

あすなる福祉園は、障がいのあるなしにかかわらず「当たり前的人生」を実現することを目指して、支援サービスの提供を行いました。一人ひとりの自立につながる支援の提供を心がけ、次の課題への取り組みを進めました。

- ・ 生きる喜びを感じることができる日常生活をおくる。
- ・ 人々とのふれあいほかさまざまな体験をする機会を設ける。
- ・ ご利用者・ご家族との適切な連携・関係を図る。
- ・ 地域の一員として生きていくため、地域社会との確かなつながりを作る。

今後の課題・取組事項としては、以下のとおりです。

- ・ 日中活動の充実化を図る。(ご利用者へのサービス提供内容の充実化)
- ・ ご利用者が快適に過ごすための環境整備を図る。(園内の環境整備)
- ・ 研修内容の充実化を図り、職員が自ら学ぶ環境を作る。
(ご利用者への支援の質の向上を図る)
- ・ 職員間の情報共有におけるシステムづくりを構築する。
(職員数に準じた情報を共有するシステムの定着化を図る)

1 事業所の利用者・職員について

(1) 開所日数・利用人数 (生活介護 (定員 24 名) / 就労継続支援 B 型 (定員 16 名))

	開所日数	年間利用人数	一日平均利用人数
生活介護 (利用者 32名)	245日	6,741人	27.6人
就労継続支援B型 (利用者 19名)	245日	4,495人	18.4人

(2) 職員体制

平成 30 年 3 月 31 日現在

	正職員	正職員(兼務)	臨時職員	臨時職員(兼務)	パート職員
管理職	1				
サービス管理責任者		1			
生活介護	6		3		6
就労継続支援B型	2		2	1	
合計	9	1	5	1	6

外書き ; 正職 : 2 (休職) 臨時職員 : 1 (休職) / 運転員 1

2 日課の組み立て

	月	火	水	木	金
9:00	登所・始まりの準備				
9:50	始まりのミーティング・体操など				
10:00	作業・日常活動・レク活動	作業・日常活動・レク活動	作業・日常活動・レク活動	作業・日常活動・レク活動	作業・日常活動・レク活動
11:40	昼食・昼休み				
13:00	作業・日常活動・レク活動	作業・日常活動・レク活動	作業・日常活動・レク活動	作業・日常活動・レク活動	作業・日常活動・レク活動
14:50	清掃・終わりのミーティングなど				
16:00	(15:30送迎車発) 降 所				

《活動》

- ◆生活介護：各グループごとの活動を実施する。

運動、散歩、音楽、創作、外出、調理実習、リトミック活動（月3回）、紙すきの創作活動（グループ単位）

生活介護の作業

午前か午後を実施する。少人数制とする4つのグループ編成で、作業活動を実施する。

- ◆就労継続支援 B 型：午前午後ともに作業を実施する。

就労継続支援 B 型の作業

作業の他に体力の維持、体重管理のため個別の運動メニューを取り入れて実施する。（ダンス・運動器具の使用）

3 生産活動（実施種目）

	生活介護	就労継続支援 B 型
作業内容	(受託作業) ・箱折り ・CD 分解・分別作業 ・小型家電の分解 ・灯籠作業 (その他) ・アルミ缶や古紙等の資源回収	(受託作業) ・箱折り ・ギフト商品作り ・濾過器の解体、洗浄、組み立て ・プチマット洗浄 ・チラシ・広報誌の封入作業 （県市から依頼される作業） (その他) ・畑での農作物作り（枝豆、さつまいも等）

4 授産・就労作業の収支

	収入：年間作業等売上額	支出：月平均1人当たり工賃支払額
生活介護	351,988 円	875 円
就労継続支援 B 型	2,345,143 円	9,255 円

5 創作活動ほか諸活動（実施項目）

- ・ 日常の活動：創作、散歩、運動、音楽、リトミック、調理実習、その他の活動
アグリケアプログラム
(動物ふれあい体験、菌ちゃんの土での農業体験、ラベンダー摘み体験等)
- ・ 社会参加：お花見、社会参加活動、宿泊旅行、日帰り旅行、グループ別活動
ふれあいウォーク等
- ・ 運動支援：ダンス、ウォーキング、エアロバイク、バランスボール、
踏み台昇降、体育館でのウォーキング 筋力維持の運動 等
- ・ 地域交流：地域交流クリスマス会、黒鳥地域運動会及び防災避難訓練に
参加等

6 健康管理／安全管理にかかると特記事項

●健康管理

- ・ ご利用者の健康診断実施（11月～翌1月）
- ・ 嘱託医によるご利用者への健康指導および相談（7月）
- ・ 嘱託医による職員への定期指導および助言等（11月）
- ・ インフルエンザ予防接種実施（11月）

●安全管理

- ・ 年2回防災訓練実施（昨年度は5月、11月に実施）

7 職場内研修（実施状況）

(1) 第1回職場内研修 9月9日(土) 8:30から12:30

- ① 障がい福祉サービスの概要について
 - ・ 障がい者総合支援法の目的等
- ② サービス提供における基本事項
 - ・ 事業所内における加算に係る事項等
- ③ 法人研修で学んだことについて（振り返り）
～どのように活かしているのか話し合おう～

(2) 第2回職場内研修 1月13日(土) 10:00から14:00

- ① 次年度に向けての事業所内における業務改善について
 - ・ あすなろ福祉園全般において

- ・生活介護・就労継続支援 B 型において
（事前に各自記入してきた資料をもとにサービスごとで話し合い、その後、
全体で協議する）

② 個別支援計画作成について（法人研修内容の復習等）

8 苦情受付件数

平成29年度苦情受付件数： 2 件

平成 29 年度事業報告書

(障害福祉サービス事業所 青山ファクトリー)

障がいのあるなしにかかわらず「当たり前的人生」を実現することをめざして、ご利用者の意向や特性等に応じたサービス提供や地域で自立（自律）生活できる支援に努めました。

《生活介護》

午前中は企業からの軽作業、午後は運動や調理実習など余暇活動等の提供を行いました。ご本人の意志・ペースにあわせ、環境を整え、楽しく安心して利用していただきました。

《就労継続支援 B 型》

食品製造販売や行政・企業からの軽作業、就農作業等の提供を行いました。その中で、新規受注先や販売先増により工賃アップや就労スキルの向上へつなげました。

《課題、懸案事項》

- ①食品の新製品開発や工賃アップにつながる作業改善、日中活動メニューの充実を図る。
- ②安心安全な作業環境づくりの取り組み、災害・不審者対応の訓練をする。
- ③地域住民との良好な関係を築く。私たちを知ってもらう努力をする。
- ④老朽化した施設設備及び車両等の修繕計画立案やご利用者の作業室や職員室の環境整備を図る。

1 事業所の利用者・職員について

(1) 開所日数・利用人数（生活介護（定員 12 名）／就労継続支援 B 型（定員 28 名））

	開所日数	年間利用人数	一日平均利用人数
生活介護 (利用者17名)	247日	3,006人	12.2人
就労継続支援 B 型 (利用者28名)	255日	6,012人	24.7人

(2) 職員体制

平成 30 年 3 月 31 日現在

	正職員	正職員(兼務)	臨時職員	臨時職員(兼務)	パート職員
管 理 職	1				
サービス管理責任者	1				
生活介護	2			0.5	2
就労継続支援 B 型	2		3	0.5	1
合 計	6		3	1	3

正職(休職)1名 / 運転員 1名

2 日課の組み立て

	月	火	水	木	金
9:00	登所				
9:40	朝礼・ラジオ体操				
10:00	作業	作業	作業	作業	作業
11:40	昼食の準備・昼食・お昼休み				
13:00	作業または 余暇活動	作業または 余暇活動	作業または 余暇活動	作業または 余暇活動	作業または 余暇活動
15:10	掃除・明日の作業の準備など				
16:00	終礼・降所				

3 生産活動（実施種目）

	生活介護	就労継続支援B型
作業内容	（受託作業） ・箱折り ・プチマット洗浄 ・地域の公園清掃 （自主製品） ・たまごボーロの製造販売 （その他） ・アルミ缶潰しや古紙等の資源回収	（受託作業） ・箱折り ・プチマット洗浄作業 ・ギフト商品作り ・ドラム缶の蓋ネジの研磨作業 ・電気メーターの分解作業 ・チラシ・広報誌の封入作業 （県市から依頼される作業） （自主製品） ・パン・クッキーの製造販売 ・クイリング製品の製造販売 （施設外就労） ・高齢者施設の草取り作業 ・就農作業 （その他） ・食品や旅行商品等の仕入販売

4 授産・就労作業の収支

	収入：年間作業等売上額	支出：月平均1人当たり工賃支払額
生活介護	300,760 円	1,265 円
就労継続支援B型	4,243,555 円	9,426 円

5 創作活動ほか諸活動（実施項目）

- ・日常の活動 : 創作、散歩、運動、音楽、調理実習、その他の活動
- ・社会参加 : レクリエーション活動、宿泊研修旅行、ふれあいウォーク等
- ・運動支援 : 公園やみなとトンネルにての活動
- ・地域交流 : 地域交流会、防災避難訓練に参加等

6 健康管理／安全管理にかかると記事項

- 健康管理
 - ・ 11月～12月に希望者による一般健康診断の実施
(インフルエンザ予防接種を予定していたが、ワクチン不足で実施せず)
 - ・ 毎日の体温測定、月1回の体重測定の実施
 - ・ 年2回嘱託医による健康のための定期指導の実施(生活介護対象)
- 安全管理
 - ・ 3カ月に1回の消防用設備の自主点検
 - ・ 5月25日 避難訓練(地震、火災発生 of 想定)の実施
 - ・ 11月30日 避難訓練(地震・火災・津波発生 of 想定)の実施
 - ・ 年2回の消防用設備の点検実施(消防設備業者に委託)

7 職場内研修(実施状況)

(1) 第1回職場内研修 9月9日(土) 午前8:30から12:30

- ①法人研修で学んだことの活用について
- ②地域防災訓練の参加について

(2) 第2回職場内研修 1月20日(土) 午前8:30から12:30

- ①平成30年度事業計画について
- ②非常災害対策について

8 苦情受付件数

平成29年度苦情受付件数： 0件

平成 29 年度事業報告書

(障害福祉サービス事業所 福祉事業所つばさ)

福祉事業所つばさは、障がいのあるなしにかかわらず「当たり前的人生」を実現することをめざして、平成 29 年度は以下の 4 点を重点目標に掲げ支援サービスの提供を行いました。それぞれの評価は下記のとおりです。

- ①重度の重複障がいを持つ方への支援を充実させ、より皆様に安心して過ごして頂けるよう、施設内の環境整備・職員のスキル向上を図ります。
⇒職員配置の見直しや個人スペースの設置を行いました。また、県外への研修にも積極的に参加し、幅広い知識の習得とネットワークづくりに努めました。
- ②就労職種・作業の充実・見直し。
作業全体について、自主製品の商品開発・製造と施設外作業を重点に置き、工賃の増額と併せてご利用者の社会経験を積む場の確保、(障がいに対する)地域社会の理解の促進を図ります。
また、重度の方でもできる作業を開拓し、施設内での作業の充実を図ります。
⇒自主製品と施設外作業の売り上げは安定して推移し、平均工賃は初めて一万円(従たる事業所を除く)を超えました。ただし、重度の方でもできる作業の充実について、まだ新しい作業の確保はできていません。
- ③「菌ちゃん野菜作り」等アグリケアプログラムを活用しながら、活動の充実と地域住民への理解促進・協力関係の強化に務めます。
⇒1年間を通して、アグリケアプログラムを活用しながら夏・冬野菜づくりに取り組み、地域住民にもご参加頂きました。新しく「食」をテーマとしたプログラムを試行し、プロの調理師と共同で野菜の収穫と試食会を企画しました。
- ④社会参加活動の充実を通し、ご利用者の余暇活動の充実、生活の質の向上を図ります。
⇒生活介護の活動で、ご利用者に好評なお出かけ行事を増やしました。

1 事業所の利用者・職員について

(1) 開所日数・利用人数 生活介護(定員 10 名) / 就労継続支援 B 型(定員 18 名)

	開所日数	年間利用人数	一日平均利用人数
生活介護 (利用者13名)	245日	2,810人	11.5人
就労継続支援 B 型 (利用者22名)	249日	4,041人	16.2人

(2) 職員体制

平成 30 年 3 月 31 日現在

	正職員	正職員(兼務)	臨時職員	臨時職員(兼務)	パート職員
管 理 職		1			
サービス管理責任者		1			
生活介護	2	0.5			3
就労継続支援 B 型	2	0.5	1		1
合 計	4	3	1		4

外書き；正職(休職) 0 名 / 運転員 1 名

2 日課の組み立て

	月	火	水	木	金
9:00	通所・始まりの準備				
9:40	始まりのミーティング・体操など				
10:00	作業または活動	作業または活動	作業または活動	作業または活動	作業または活動
11:45	昼食・昼休み				
13:00	作業または活動	作業または活動	作業または活動	作業または活動	作業または活動
15:00	清掃・帰りの準備・終礼				
15:30	帰宅（送迎開始）				

午前・午後ともに15分の休憩（水分補給）あり

3 生産活動（実施種目）

	生活介護	就労継続支援B型
作業内容	(受託作業) ・箱折り ・メーター分解 ・タオルたたみ ・ウエス切り等 ・広報紙封入作業等 （県市等から依頼された作業） (自主製品) ・布、ビーズ雑貨製造 ・箸置き製造 (その他) ・アルミ缶や古紙等の資源回収	(受託作業) ・箱折り ・メーター分解 ・タオルたたみ ・ウエス切り等 ・広報紙封入作業、研修会等受付業務等 （県市等から依頼された作業） (自主製品) ・布、ビーズ雑貨製造 ・箸置き製造 (施設外就労) ・県庁駐車場管理業務 ・(株)萬松堂様倉庫内シール貼り作業 (その他) ・アルミ缶や古紙等の資源回収

4 授産・就労作業の収支

	収入：年間作業等売上額	支出：月平均1人当たり工賃支払額
生活介護	224,501円	1,199円
就労継続支援B型	2,525,010円	10,005円

5 創作活動ほか諸活動（実施項目）

- ・ 日常の活動：創作、散歩、運動、音楽、調理実習、その他の活動
- ・ 社会参加：一泊研修旅行、グループお出かけ、市・他団体主催行事（障がい者大運動会、ふれあいウォーク等）、りゅーとぴあ「ワンコインコンサート」、ほんぽーと「わらべうたの会」

- ・運動支援 : コスポ「新潟大学篠田塾 健康体操教室」参加、3B体操（講師来所）実施等
- ・地域交流 : 豊照コミュニティ協議会行事（健康ウォーク、クリーン大作戦、とよてる夏まつり、防火・防災訓練、豆まき・玉入れ大会）参加
東中通旭七ヶ町自治会行事共催・参加（ワンコインパーティー）
アグリケアプログラムによる「菌ちゃん野菜づくり」実施

6 健康管理／安全管理にかかると特記事項

●健康管理

- ・ご利用者健康診断実施（20名参加） 平成29年10～11月

●安全管理

- ・避難訓練実施 2回 平成29年7月、平成30年1月（大雪のため延期し4月に実施）

7 職場内研修（実施状況）

（1）第1回職場内研修 平成29年9月9日（土） 午前8:00から12:30

- ① 事業所の運営状況について
- ② 研修成果についての検証
- ③ チーム支援を行うために（支援の共有と体制づくりについて）
（研修報告と支援内容、シフトの検討）
- ④ 研修旅行について
（計画内容の確認、支援体制等職員の動きの検討）

（2）第2回職場内研修 平成30年1月27日（土）

- ① 職員としての心構えと事業所の運営状況について
- ② 平成30年度事業計画案について
- ③ つばさ移転の進捗状況について
- ④ 研修報告
（・記録の仕方について ・マニュアルの作成について）

8 苦情受付件数

平成29年度苦情受付件数： 1件

平成 29 年度事業報告書

(障害福祉サービス事業所 福祉事業所いしやま)

福祉事業所いしやまは法人の理念である《障がいのあるなしにかかわらず「当たり前」の人生》を実現すること》を念頭に置き、福祉事業所いしやまの基本方針である『利用者さんやご家族が望む、ご本人らしい人生を歩むため』にご利用者それぞれの目標に向かって、さまざまな活動を提供しました。

計画の一つであった土日祝日の試験的な開設は、3回実施しました。昨年度は、バザーや行事日合わせて開所をしましたが、平成 30 年度はバザーや行事以外の土日祝日開所を検討します。

作業に関しては、施設外就労（農）と食品製造の売上が安定しており、目標であった月平均工賃 7,500 円を上回ることができました。

その他の余暇活動や行事等はほぼ予定通り進めることができました。余暇活動の一つ、新潟市事業アグリケアプログラムをパイロット事業で行い、ご利用者の違った一面を見ることができたと思います。

1 事業所の利用者・職員について

(1) 開所日数・利用人数 (就労継続支援B型 (定員 12名))

	開所日数	年間利用人数	一日平均利用人数
就労継続支援B型 (利用者16名)	254日	3,024人	11.9人

(2) 職員体制

平成 30 年 3 月 31 日現在

	正職員	正職員(兼務)	臨時職員	臨時職員(兼務)	パート職員
管 理 職		0.2			
サービス管理責任者		0.5			
生 活 介 護					
就労継続支援B型	1	0.5	1		1.2
合 計	1	1.2	1		1.2

正職(休職)0名 / 運転員0名

2 日課の組み立て

	月	火	水	木	金
9:00	登所・始まりの準備				
9:30	朝礼・体操・ダンス				
9:40	作業	作業	作業	作業	作業
12:00	昼食・昼休み				
13:00	作業	作業	作業	作業	作業
15:10	清掃				
15:40	終礼				
15:50	降所				

午前・午後ともに 20 分の休憩（水分補給）あり

3 生産活動（実施種目）

就労継続支援 B 型	
作業内容	<p>(受託事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計器分解作業 ・ L P G ボンベ用バルブのシール剤塗り作業 ・ 箱折作業 ・ 箸作業 ・ 封入作業 <p>(自主製品)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふわり（洋菓子）の製造 ・ ジャム ・ 食べれまペン（ボールペン） ・ 貼っつけケーキ（マグネット装飾品） <p>(施設外就労)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農作業

4 授産・就労作業の収支

	収入：年間作業等売上額	支出：月平均 1 人当たり工賃支払額
就労継続支援 B 型	1,747,871 円	7,699 円

5 創作活動ほか諸活動（実施項目）

- ・ 社会参加 : スポーツ交流会、宿泊研修旅行、ふれあいウォーク 等
- ・ 運動支援 : ふれあいプラザなどで運動活動（年 4 回）
- ・ 地域交流 : いしやま冬まつり、地域支え合い活動「輪とくらぶ」 等
- ・ 余暇活動 : アグリケアプログラムの活動

6 健康管理／安全管理にかかると特記事項

- 健康管理
 - ・ 健康診断（8 月 30 日、9 月 1 日実施）
- 安全管理
 - ・ 避難訓練（6 月 28 日、2 月 26 日実施）

7 職場内研修（実施状況）

- (1) 第 1 回職場内研修 平成 29 年 9 月 23 日（土）8：30 分から 12：30
- ① H29 事業計画の再確認・進捗
 - ・ 資料をもとに報告、検討し、今後の取り組みを再確認。
 - ② アグリケアプログラム（ACP）活動について
 - ・ 資料をもとに説明。
 - ③ サービス提供についての再確認・基本的なこと

- ・資料をもとにサービス報酬・加算の取扱い、個人記録のあり方を職員間で統一。
- ④ 法人研修で学んだこと～支援の中でどのように活かしているのか
 - ・2月25日、7月8日に行われた法人研修の内容を確認。
- ⑤ ご利用者の作業・生活評価について
 - ・資料をもとに作業評価のつけ方を再確認。

(2) 第2回職場内研修 平成30年2月24日(土) 8:30から12:30

- ① 事業及び予算(案)
 - ・資料をもとに説明。
- ② サービス報酬単価やその他加算の改正について
 - ・資料をもとに、欠席加算の取扱いについて、平成30年度からの総合支援法改正の説明。
- ③ 記録のつけ方
 - ・渋木職業指導員の研修報告。
- ④ 虐待について
 - ・石墨目標工賃達成指導員の研修報告。
- ⑤ ご利用者の状況について
 - ・作成した「ご本人状況」の資料を見直し。

8 苦情受付件数

平成29年度苦情受付件数： 1件

地域支え合い事業 輪っくらぶ

ご利用者が、地域の高齢の方や障がいのある方が安心して暮らしていけるようにちょっとした生活上の困りごとの相談を受けたりお手伝いをし、見守りや支え合いの担い手としての活動及び地域との交流を深めるよう努めてきました。

今年度は、大雪の影響もあり、除雪で2件の依頼がありましたが、買い物代行の依頼はありませんでした。

活動実績

活動内容	料金(単価)	件数	合計時間	金額(円)
除草作業	500円(1h)	13件	45時間	22,500円
除雪作業	500円(1h)	2件	2時間	1,000円
買い物代行	300円(1h)	0件	0時間	0円
ガソリン代(必要な場合のみ)	25円(1km)	(15件)	(108km)	2,700円
合計		15件	47時間	26,200円

平成29年度事業報告書

(障害福祉サービス事業所 福祉事業所ハーモニー)

「福祉事業所ハーモニー」は、《障がいのあるなしにかかわらず「当たり前的人生」を実現すること》をめざして、支援サービスの提供を行っています。一人ひとりの自立につながる支援の提供を心がけるとともに、ご利用者個々の特性を活かしたよりよい支援の実施に向けて、次の課題の取り組みを進めています。

- 生きる喜びを感じることができる日常生活を送る。
 - 人々とのふれあいのほか、さまざまな体験をする機会を設ける。
 - ご利用者・ご家族との適切な連携を図る。
 - 地域の一員として生きていくため、地域社会との確かなつながりを作る。
- また、平成29年8月からグループホーム「カノン」が開所となりましたが、バックアップ施設として送迎等の体制も整え、ご利用者の生活支援の向上に努めています。

1 事業所の利用者・職員について

(1) 開所日数・利用人数 (生活介護 (定員 30名) / 就労継続支援B型 (定員 10名))

	開所日数	年間利用人数	一日平均利用人数
生活介護 (利用者 32名)	254日	7,232人	28.5人
就労継続支援B型 (利用者 12名)	254日	2,752人	10.9人

(2) 職員体制

平成30年3月31日現在

在

	正職員	正職員 (兼務)	臨時職員	臨時職員 (兼務)	パート職員
管理者	1				
次長	1				
サービス管理責任者	1				
生活介護	3	(2)	1		4
就労継続支援B型	2	1			1
合計	8	1 (2)	1		5

外書き ; 正職 (休職) 0名 / 他 運転員 1名

2 日課の組み立て

	月	火	水	木	金
9:00	登 所 ・ 始 ま り の 準 備				
9:30	始 ま り の ミ ー テ ィ ン グ ・ 体 操 ・ ダ ン ス な ど				
10:00	作 業 ・ 創 作 ・ 施 設 外 就 労 等	作 業 ・ 創 作 ・ 施 設 外 就 労 等	作 業 ・ 創 作 ・ 施 設 外 就 労 等	作 業 ・ 創 作 ・ 施 設 外 就 労 等	作 業 ・ 創 作 ・ 施 設 外 就 労 等
12:00	昼 食 ・ 休 憩				
13:00	作 業 ・ 創 作 ・ 施 設 外 就 労 等	作 業 ・ 創 作 ・ 施 設 外 就 労 等	作 業 ・ 創 作 ・ 施 設 外 就 労 等	作 業 ・ 創 作 ・ 施 設 外 就 労 等	作 業 ・ 創 作 ・ 施 設 外 就 労 等
15:10	清 掃 ・ 終 わ り の ミ ー テ ィ ン グ な ど				
16:00	降 所 （15:45 送 迎 車 発）				

※ 日中活動の説明（生活介護：作業・創作・諸活動、就労B：作業・施設外就労等）

※ 午前と午後に1回ずつ水分補給の休憩を入れている

3 生産活動（実施種目）

	生活介護	就労継続支援B型
作 業 内 容	(受託作業) ・電気メーター分解 ・和装小物仕上げ ・箸セット作り ・プチマット洗淨 ・チラシ折り込み ・ボール洗淨 (自主製品) ・卓上カレンダー ・オリジナル名刺 ・ポストカード ・アロマボール ・アクセサリー (選択活動) ・ミュージックケア ・運動 ・アート活動 ・ウォーキング ・調理実習	(受託作業) ・封入作業 ・電気メーター分解 ・施設外就労（清掃） ・施設外就労（除草） (自主製品) ・手作りせんべい各種 ・焼き菓子 (選択活動) ・ミュージックケア ・運動 ・アート活動 ・ウォーキング ・調理実習

4 授産・就労作業の収支

	収入：年間作業等売上額	支出：月平均一人当たり工賃支払額
生活介護	996, 342 円	2, 114 円
就労継続支援 B 型	2, 810, 532 円	13, 474 円

5 創作活動ほか諸活動（実施項目）

- ・ 日常の活動 : 創作、ウォーキング、運動、ミュージックケア、調理実習他
- ・ 社会参加 : ふれあいウォーク、宿泊研修旅行、行事他
- ・ 運動支援 : 障がい者運動会、スポーツ交流会、ウォーキング他
- ・ 地域交流 : 他施設との交流、感謝祭、除草ボランティア他

6 健康管理/安全管理にかかると特記事項

●健康管理

- ・ 毎月ご利用者の健康観察の実施

●安全管理

- ・ 避難訓練を年間 2 回実施、2 カ月に 1 回所内安全点検を実施

7 職場内研修(実施状況)

(1) 第 1 回職場内研修 平成 29 年 9 月 30 日

- ① 各職員研修受講後の伝達研修及び虐待防止チェックリストの報告

(2) 第 2 回職場内研修 平成 30 年 1 月 27 日

- ① 各職員研修受講後の伝達研修とケース会議の実施

8 苦情受付件数

平成 29 年度苦情受付件数： 3 件

平成29年度事業報告書

(共同生活援助事業所 ポルカ)

1 概要

- ・管理施設；福祉事業所つばさ ・管理者；1名 ・サービス管理責任者；1名
- ・生活支援員；7名 ・世話人；11名

2 事業実施住居

- ・ポルカ 新潟市西区寺尾西4-8-28 定員4名 平成21年4月1日開設
- ・ロンド 新潟市西区寺尾上1-2-11 定員5名 平成23年6月1日開設
- ・ワルツ 新潟市西区寺尾台2-7-5 定員4名 平成28年4月1日開設

3 快適な生活を送るための支援

- ・個別支援計画については、ご利用者及び保護者のご希望を聴き、それに基づいたモニタリング会議を重ね三者面談を行った。
三者面談ではモニタリングの説明を行い、支援計画の内容や生活の様子などを話し合い、ご利用者の快適な生活を送るために必要な支援を提供できるように努めた。
- ・ご利用者が生活する中で必要な、洗濯や掃除、衣類の管理など本人の希望を取り入れ、それぞれに沿った内容を考えながら、ご利用者が支援員・世話人と共に行うようにした。
- ・定期的に管理者・支援員・世話人による会議を行い、快適な生活を送るために問題点や改善点などを検討して対策を話し合い、実施した。
- ・インフルエンザ、ノロウィルスなどの流行があったときには、日常的に行う手洗い及びうがいをていねいに行うように注意を払い、毎日検温をした。
- ・食事についてはバランス・カロリー・衛生面に配慮したメニュー作成や調理に当たった。
- ・年2回お任せメニューの日として世話人の考案したメニューの食事を提供した。

4 自然災害・火災・防犯等への対応

- ・ご利用者と世話人・職員で避難訓練を実施した。訓練時には具体的な対応を説明して訓練に入り、徐々に説明なしで避難を実行できるようになってきている。
- ・訓練後には問題点を検討し改善に努めた。
- ・大雪のため日中利用している事業所が休みになったときには支援員を配置し日中の支援を行った。

5 暮らしに彩りを添える

- ・誕生日やクリスマスなどの行事を行った。

6 地域に溶け込むために

- ・地域の清掃や町内の行事に参加するようになった。
- ・町内の側溝清掃に参加、ゴミ出しや回覧板を回すなどご利用者と共に行った。

7 生活に参加するために

- ・ホームにおける生活の自立度を高めるために、自室の清掃や整頓など無理のないことから取り組んでいる。

8 その他

- ・4棟目のホーム「カノン」を28年度の体験を生かし工事を行い平成29年4月1日開設した。

平成29年度事業報告書

(共同生活援助事業所 カノン)

1 概要

- ・管理施設；福祉事業所ハーモニー ・管理者；1名 ・サービス管理責任者；1名
- ・生活支援員；2名 ・世話人；5名

2 事業実施住居

- ・カノン 新潟市東区新岡山2-1-21 定員4名 平成29年8月1日開設

3 快適な生活を送るための支援

- ・個別支援計画については、ご利用者及び保護者のご希望を聴き、それに基づいたモニタリング会議を重ね三者面談を行った。
三者面談ではモニタリングの説明を行い、支援計画の内容や生活の様子などを話し合い、ご利用者の快適な生活を送るために必要な支援を提供できるように努めた。
- ・ご利用者が生活する中で必要な、洗濯や掃除、衣類の管理など本人の希望を取り入れ、それぞれに沿った内容を考えながら、ご利用者が支援員・世話人と共に行うようにした。
- ・定期的に管理者・支援員・世話人による会議を行い、快適な生活を送るために問題点や改善点などを検討して対策を話し合い、実施した。
- ・インフルエンザ、ノロウィルスなどの流行があったときには、日常的に行う手洗い及びうがいをていねいに行うように注意を払い、毎日検温をした。
- ・食事についてはバランス・カロリー・衛生面に配慮したメニュー作成や調理に当たった。
- ・年2回お任せメニューの日として世話人の考案したメニューの食事を提供した。

4 自然災害・火災・防犯等への対応

- ・ご利用者と世話人・職員で避難訓練を実施した。訓練時には具体的な対応を説明して訓練に入り、徐々に説明なしで避難を実行できるようになってきている。
- ・訓練後には問題点を検討し改善に努めた。

5 暮らしに彩りを添える

- ・誕生日やクリスマスなどの行事を行った。

6 地域に溶け込むために

- ・町内のゴミステーションの掃除を行った。
- ・ゴミ出しや回覧板を回すなどをご利用者と共に行った。

7 生活に参加するために

- ・ホームにおける生活の自立度を高めるために、自室の清掃や整頓など無理のないことから取り組んでいる。

平成 29 年度事業報告書

(特定相談支援事業所 相談支援センターくろっとり)

1 事業所運営の基本方針

- (1) 自立支援 利用者がライフステージのあらゆる段階において、障がいの程度にかかわらず、自立した生活をめざし、社会活動へ積極的に参加できるように支援する。
- (2) 主体性の尊重 利用者が、一人の生活者として、自らの生活を自らの意思で選択・決定し、築けるよう、可能な限り本人の意思を尊重し、自己決定ができるように支援する。
- (3) 生活の質(QOL)の向上 物質的に豊かな生活をめざすだけでなく、利用者の人格と個性を尊重し、人間らしく生きていく内面的充実感を豊かにすることを含めて、利用者のよりよい生活を重要視した支援をする。

2 特定相談支援事業の実施状況

(1) 目的・対象者

目的：利用者が地域で自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者に対してサービス等利用計画を作成する。指定特定相談支援事業を実施し、その計画に基づく相談支援を適切に提供する。

対象者：18歳以上の身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者。

契約者数：154名

(2) 事業実施職員体制（平成30年3月31日現在）

管理者：1名（兼務）

相談支援専門員：2名（1名専従、1名兼務）

パート事務員：1名

(3) 事業実施内容の内訳

1) モニタリング報告及びサービス等計画の交付について

区 分	年間件数
サービス等利用計画	182件
モニタリング報告書	136件

2) 相談方法について

区 分	年間件数
電話相談	512件
自宅訪問	155件
事業所訪問	217件
来所相談	32件
その他	100件
合 計	1,016件

上記1)、2) 対象期間：平成29年4月1日～平成30年3月31日

3 相談支援の取り組み

- (1) 法人の基本理念である人間尊重・自立支援・幸福追求を目指す考えに基づき、利用者の思い・願いや抱える課題を真摯に受け止め、利用者本人に寄り添ったサービス等利用計画を作成しました。
- (2) 利用者がサービスを選択しやすいよう、必要な情報提供及び助言を行いました。
- (3) 他相談支援事業所・基幹相談事業所、日中活動事業所等、医療機関や行政などと連携を図り、適切な福祉サービスが実施されるよう取り組みました。
- (4) 利用者の地域生活しやすい環境作りをしました。

4 職員の支援スキルアップ研修・会議に参加

研修会・会議などに参加し、職員の支援スキルアップを図りました。

- ①西区相談支援事業所会議：6月27日、10月10日、2月14日
- ②西区がく・ふく連携会議：6月27日
- ③西区・西蒲区「このゆびとまれ」研修会：7月11日、9月12日、11月14日

5 主な課題事項と対応について

主な課題について、平成30年度引き続き解決に向けて取り組みます。

- ①多様なニーズ・相談に対応できるように、各種の研修やセミナー等に積極的に参加し、知識と技術の習得に努め、相談員の質を更に高めていく。また、相談支援に関連する研修会に参加するだけでなく、社会資源の活用について学ぶ機会も設ける。
- ②少人数の職員体制の中で、相談支援業務に支障が生じることない取り組みが必要である。

6 苦情受付件数について

平成29年度苦情受付件数： 0件